

おぢや市議会 だより

NO. 100
令和3.4.25

編集発行
小千谷市議会
☎83-3505

OJIYA CITY ASSEMBLY



- 第1回定例会議決結果 P 2
- 常任委員会報告 P 3
- 一般質問 P 4～9
- 議会日誌 P 10
- 雪あかり、編集後記 P 10



— 主な掲載内容 —

「春日和」 撮影者：桜井博之さん

第 1 回 定 例 会 議 決 結 果 (3月1日から3月19日まで開催)

議案番号等		議 件 名	議決状況	議決結果
条 例	議案第11号	小千谷市固定資産評価審査委員会条例及び小千谷市職員の服務の宣誓に関する条例の一部改正	全会一致	原案可決
	議案第12号	小千谷市立保育園条例の一部改正	〃	〃
	議案第13号	小千谷市介護保険条例の一部改正	〃	〃
	議案第14号	小千谷市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正	〃	〃
	議案第15号	小千谷市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正	〃	〃
	議案第16号	小千谷市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部改正	〃	〃
	議案第17号	小千谷市指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部改正	〃	〃
	議案第18号	小千谷市道路占用料等徴収条例の一部改正	〃	〃
	議案第19号	小千谷市駅前広場条例の一部改正	賛成多数	〃
	議案第20号	小千谷市営住宅条例の一部改正	全会一致	〃
	議案第21号	小千谷市火災予防条例の一部改正	〃	〃
予 算	議案第1号	令和3年度小千谷市一般会計予算	賛成多数	〃
	議案第2号	令和3年度小千谷市国民健康保険特別会計予算	全会一致	〃
	議案第3号	令和3年度小千谷市介護保険特別会計予算	〃	〃
	議案第4号	令和3年度小千谷市後期高齢者医療特別会計予算	賛成多数	〃
	議案第5号	令和3年度小千谷市工業団地事業特別会計予算	全会一致	〃
	議案第6号	令和3年度小千谷市ガス事業会計予算	〃	〃
	議案第7号	令和3年度小千谷市水道事業会計予算	〃	〃
	議案第8号	令和3年度小千谷市工業用水道事業会計予算	〃	〃
	議案第9号	令和3年度小千谷市下水道事業会計予算	〃	〃
	議案第22号	令和2年度小千谷市一般会計補正予算(第9号)	〃	〃
	議案第23号	令和2年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第5号)	〃	〃
その他	議案第10号	専決処分(令和2年度小千谷市一般会計補正予算(第8号))	〃	承認
	議案第24号	小千谷市財政調整積立金の処分	〃	原案可決
	議案第25号	公共施設の相互利用に関する協定の一部変更	〃	〃
	議案第26号	小千谷市営土地改良事業(災害復旧)の施行	〃	〃
	議案第27号	小千谷市教育長の任命(松井周之輔氏)	賛成多数	同意
発 議	発議案第1号	小千谷市議会会議規則の一部を改正する規則	全会一致	原案可決
	発議案第2号	降雪地において安心した交通輸送に関する意見書	〃	〃

議 員 賛 否 の 状 況 (採決において賛否が分かれたもの)

議案番号等	議決結果	賛成	反対	阿部守男	平澤智	上村行雄	駒井和彦	大矢弘光	佐藤栄作	森本恵理子	住安康一	内山博志	佐藤隆一	吉崎進	久保田陽一	長谷川有理	田中淳	山賀一雄	本田剛
議案第1号	原案可決	14	1	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-	○	○
議案第4号	〃	14	1	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-	○	○
議案第19号	〃	13	2	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-	○	○

※ ○は賛成、×は反対、議長(田中淳)は採決に加わりません。

常任委員会報告

総務文教委員会

委員長 上村 行雄

本委員会に付託されました議案8件を慎重に審査した結果、議案はすべて原案のとおり可決すべきものと決しました。

○議案第1号 令和3年度小千谷市一般会計予算について

委員会での意見

・市民協働推進事業について市民に市民協働の意識を高め活性化した事業を。

・住民税の申告書作成をパソコン等によりプリントアウトができるよう検討を。

・診療所補助金は新しい診療所を作っていたり数年継続を。

・高齢者施設や学校で働く方に対しPCR検査費用の補助が必要ではないか。

・新たに環境共生推進室が設置されるのでごみの減量化推進を。

・生きがい活動支援通所事業では実態の把握と制度設計の研究を。

・ものづくり未来チャレンジ事業

では事業継承支援にも取り組みを。
・山本山の景観形成に関連し所管は観光交流課ないし観光協会に変更しては。

・病院跡地活用事業での再生可能エネルギー導入可能性調査業務では目標を早く策定すべきでは。

・総合支援学校のスクールバス運行について丁寧な協議の場を設けてより良い体制を。

・第5次総合計画後期基本計画がスタートしますがスクラップアンドビルドPDCAサイクルを常に頭に入れた事業執行にあたっていただきたい。

委員会での討論

・新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けていることから新年度予算はこの点を重視し感染拡大防止とクラスター対策としてPCR検査促進策が必要であり、深刻な影響を受けている事業者や市民に直接的な支援が必要。市として独自の上乗せ支援策を行うべきと考え、反対。

・市税全体で12.7%の減収の新年度予算において、国や県はICT等の予算を支援する方針でもあり、各分野で支援の動きを適宜捉

え、厳しい状況を和らげるような対応を望み、賛成というものがありません。

民生産業委員会

委員長 住安 康一

本委員会に付託されました議案第2号から議案第5号まで、議案第12号から議案20号まで、並びに議案第23号の以上14件につきまして、慎重に審査した結果、原案のとおり可決すべきものと決しました。

○議案第5号 令和3年度小千谷市工業団地事業特別会計予算について

委員会での討論

・特別会計については、特定の事業をやる上で必要な場合は特別会計を設置するという形になっています。小千谷市工業団地事業特別会計設置条例でもそのようにうたわれています。予算上は、積極的な事業として取り組むという姿勢が感じられません。従いまして、残りの区画の売り払いについてとそれから新しい産業団地の整備に

ついて精力的に取り組んでほしいという意見を付して賛成。

市議会だよりをアプリで配信中



スマートフォンやタブレット端末で使える無料アプリ「マチイロ」で配信中です。最新号を発行日に自動でお届けします。ぜひご利用ください。

Android用



iPhone用



本田 剛 議員



学童クラブについて

質問 利用対象児童は保護者が仕事により昼間家庭に居られない児童が対象となっている。祖父母等

が同居の場合は入会出来ないと思うが、その祖父母が健康上などの理由で見ることが出来ない家庭も入会出来るようにしてほしい。

答弁 祖父母が同居している家庭であっても自営業や介護等で保育が行えない家庭についても申告書の提出で家庭状況を確認、保育必要とした場合は受け入れを行っている。

質問 令和3年度の場合、学童クラブ申し込み手続きは令和2年12月1日から11日であったが期限後に保護者の就職先が決まった場合は入会を受付けてほしいという意見を聞くが。

答弁 令和3年度の申込み児童数が、既に定員を超過している。希望の団体にすぐ入会出来ない場合

もあるが保護者からの相談に応じ緊急性や家庭状況等の確認により年度途中でも受付対応している。

豪雪時の災害について

質問 豪雪時に地震等の災害が発生した時、市関係課との連携及び各企業団体、町内会等への要請はどうなっているのか。

答弁 豪雪時において、災害救助法又は新潟県条例の災害適用基準に達した場合、被害状況により全職員が出勤、必要により災害対策本部を設置、部門別に災害対応にあたり市関係課との連携は取れるようにしている。

質問 豪雪時の災害避難場所の確保は各町内会また、町内会長が交代する際にも伝達されているのか。

答弁 町内会長会議の席上では伝えてないが、各町内の自主防災会員、市民に対しては毎年防災研修会開催、地域の防災力の向上を務めている。

質問 豪雪時災害発生した時、市の人口に対し非常食、日用品等の備蓄はどの位用意してあるのか。

答弁 当市は現在3万5千人分の主食、副食、飲料水、毛布など県の備蓄方針より多めに備えている。

森本 恵理子 議員



Uターン施策について

質問 最も効果的な移住施策は小千谷で育った子どもたちが故郷に帰ってくるUターン施策であると考えられる。マッチング機能等、今後のアプリの活用方法と、より有効性を増す第二新卒や人生の節目に対する働きかけについて伺う。

答弁 就労支援アプリの機能強化を進め、それぞれのタイミンングに応じながら地元就職につながる事業を実施していく。

行政のデジタル化について

質問 行政のデジタル化は市民向けのものと庁内向けのものに分けて推進していく必要があると考えている。今後の展開と市民向けに関してはワンアプリで対応することで利便性も高まると考えるが見解は。

答弁 ICT推進室を設置し、オンライン手続きなど利便性の高い市民サービスを進めていく。庁内の業務効率化としては電子決済の

導入やRPA、AI-OCRの活用を検討。ワンアプリについては公式LINEを活用したサービスの導入に向け準備をしている。

質問 デジタルに不慣れな方へのサポートは重要。今後の展開は。

答弁 可能な限り民間での展開を促し、補足する形として公民館分館事業の一つとして取り組んでいく。

小千谷の教育について

質問 経済格差が学力格差を生む一因になっている。学校の中で疑問点を解消でき、満足度の高い学習ができる場が必要では。

教育長答弁 個に応じた学習指導を行っている。今後も学びを保障する場の確保に取り組んでいく。

質問 今の時代に即した多様性を認める校則や制服にするべきでは。全国的には教育委員会が主導して動いているところもあるが小千谷の未来が確実に変わる問題である。教育長の見解と、教育委員会としてできることは何か伺う。

教育長答弁 学校の判断となるが、社会環境や生徒の状況の変化に柔軟に対応するよう、校則を見直していくことも大切であると考えている。

駒井 和彦 議員



今冬の大雪への対応と今後の対策等、移住・定住施策について

質問 今冬ゲリラ豪雪時の消雪パイプ路線の現状認識と今後の対応。

答弁 通行に支障のある場合は機械除雪で対応する。

質問 国・県に財政的支援を働きかけるべき。

答弁 国へ要望書を提出している。

質問 降雪の落ち着いた時期に、消雪パイプ路線も機械除雪して貰いたい、及び地域の垣根を越えて出動してもらいたい。

答弁 前段は実施している。後段は事故に繋がり兼ねないため、実施しない。

質問 町内会実施の「かき回し」補助基準の緩和について。

答弁 現在の補助率で協力願う。

質問 町内会が行う除雪への支援及び財源はふるさと納税で。

答弁 前段はご相談願う。後段は考えていない。

質問 雪下ろしサービス券の増額と財源はふるさと納税で。

答弁 前段後段何れも考えはない。

質問 倒壊の恐れのある特定空き家の現状と今後の対応・問題点。

答弁 1軒。応急処置を実施、現在、所有者等調査中、所有者の状況によって今後の対応を検討する。

質問 屋根雪下ろし転落防止策について。

答弁 アンカー設置について、現行の住宅エコリフォーム補助金の対象を拡大する。設置基準も示していくし、啓発普及に努める。

質問 豪雪時の原発再稼働に伴う避難について、避難不可能な場合は、再稼働と言う判断は出来ないのではないか。

答弁 県の判断を尊重する。

質問 気象防災アドバイザーの設置について。

答弁 現状で充分であり考えてない。

質問 テレワークに対する現状認識と今後の取り組みについて。

答弁 取り組みを今後も進める。

質問 地域おこし協力隊お試し・インターン制度導入は。

答弁 今以上の成果が期待出来れば活用したい。

大矢 弘光 議員



空き家について

質問 空き家の実態把握の方法は。

答弁 平成27年度には市内全域を目視、写真及び聞き取り、平成29年には町内会長へ目視等による居住状況や外壁などの飛散や倒壊などの危険性について報告いただいた。前回の市内全域調査より5年が経過したため、把握調査を考える。

質問 空き家の接続道路の雪だまり処理は道路管理者の責任範囲か。

答弁 原則として、空き家の管理者・所有者の責任で処理していただきたいと考える。しかしながら降雪状況により交通への支障が著しい箇所、空き家管理者が対応できない場合は、町内と協議しながら公平性を失わない範囲で、機械除雪により対応せざるを得ないと考える。

質問 固定資産税の納税情報の目的外使用（納税者・所有者の特定や連絡）は、住民側からの要望に

も応えられるか。あるいは行政が所有者の特定、連絡に責任を負うと考えるか。

答弁 平成27年2月に施行された空家等対策の推進に関する特別措置法では、固定資産税の課税状況は必要限度で目的以外の目的のため市町村内部で利用できる、という規定であり、住民からの提供要望に応えることはできない。また、同法では市町村が空家に関する必要な措置を講ずるよう努めることとされていることから、所有者の特定及び連絡は（ご親戚やご近所の協力をいただきながら）行政が責任を負うものと考えている。

質問 包括的な住宅政策について。

答弁 現在、積極的に進めている定住促進マイホーム取得補助事業では新規住宅の建築以外にも建売住宅、中古住宅を購入して住宅を取得する方も対象としている。空き家の利活用も重要な資源の再活用であり、有効かつエコな対応と捉えているので、今後一層「小千谷市空き家情報バンク」及び定住促進マイホーム取得補助事業の周知及び活用に努め、併せて空家所有者、管理者の意識啓発を進める。

市政の内容を聞く

一般

質問

住安 康一 議員



消雪設備、雪下ろし等の諸問題、道路除雪体制について

質問 消雪パイプ設備の点検・調整要領書の制作をすべき。

答弁 現在点検マニュアルを作成中。完成次第、各消雪組合に配布する予定。

質問 10軒にも満たない小規模消雪組合に関しては支援特例を設けるなど、新たな支援方法の検討も必要と考える。

答弁 恒常的な経費支出については、将来的な負担につながり、特に慎重に判断すべきと考える。人口減少期における消雪組合のあり方については、その規模及び周辺組合の状況を踏まえ、維持及び管理できる方法を研究する。

質問 私道などの未認定道路について、その補助要件としては道路幅が2メートル以上であり、5戸以上の住宅があることとしている。人口減少の中では要件の5戸以上

の住宅は今の時代にはそぐわない。除雪費補助制度の補助要件の緩和をすべき。

答弁 未認定道路の除雪補助は、現在の補助要件としたいと考えるが、市道認定に向けての話し合いなどについては、必要に応じて資料提供や相談していきたい。

質問 雪下ろし支援制度の窓口及び雪下ろし業者の一覧表の作成を。

答弁 支援制度は広報おぢやで周知している。除雪業者一覧表については、建設業協会及び建築組合などと協議する。

質問 道路上の降雪の深さが10cm以上の除雪出動基準の臨機応変な対応について。

答弁 基準にはこだわらず出動するなど臨機応変に対応している。

質問 豪雪時の除雪作業は時間がかかり大幅に遅れることも予想される。除雪作業開始の時間について除雪計画の変更も検討すべき。

答弁 豪雪時は、開始時間を1時間早めて午前3時から作業を行うなど除雪出動基準と同様に状況により臨機応変に対応している。早朝除雪において、除雪車の音の苦情があり、対応に苦慮している。

平澤 智 議員



総務省統一QR「J P Q R」普及事業について

質問 複数のQRコードが統一で使えるJ P Q R事業についての評価と市での導入予定は。

答弁 ICT推進室を設置し対応を進めてゆく予定。税務課等先行実施の評価により今後の取り扱いを検討する。

質問 導入の支援体制等は。

答弁 総務省の特設サイトでWEB上でのサポートが行われており、商工会議所で広報を検討している。**おぢやっ子教育プランをはじめとする小千谷市の教育行政について**

質問 おぢやっ子教育プランの評価と今後の期待することについて。

教育長答弁 確かな学力・豊かな心・健やかな体の3本柱に「ふるさと夢づくり」を加え、地域との関わりを深める活動や職場体験、企業訪問や地域の方々からボランティアとして参加していただいた

り様々な取組を行っており、ふるさと教育やキャリア教育が年々充実してきている。おぢや未来塾は産学官連携のキャリア教育推進の小千谷モデルとして注目を集めている。また防災教育にも力を入れている。2年前の改訂では小千谷縮のまちらしく「たて糸を学校、よこ糸を家庭・地域としてたて糸とよこ糸がおりなす小千谷の人づくり」の視点を大切に具体的な取組のもと実践している。今後に向けては「主体的・対話的で深い学び」や「ICT教育推進」などを具現化し「自ら考え心豊かにたくましく生きる小千谷の子ども」の育成を目指す。

質問 新たな任期にあたり、教育行政の在り方や理想像等期待するところについて。

教育長答弁 様々な教育課題解決の為、これからも一層学校と家庭、地域そして行政が連携を深めていく必要があると考える。教育は人なりと言われているように子どもたちに関わる教職員はじめ教育行政に携わる者が人間性と専門性の両面を磨きながら取り組んでいくことが大切であると考える。

山賀 一雄 議員



都市基盤の整備・街路事業の取組みについて

質問 東栄元中子線の供用開始時期はいつになるのか。

答弁 先行して国道291号の交差点を供用開始しており、国道351号の交差点を含めた全線の供用開始は、現時点では7月頃を予定している。

質問 西小千谷環状線の歩道整備をどのように考えているのか。

答弁 当該路線の北側は、市街地の大半が整備されており、南側でも年次的に事業区間が延伸されている。沿道には商業施設の出店も進んでいるので、県に対し引き続き事業促進を要望する。

質問 本町城内線南側の歩道整備をどのように考えているのか。

答弁 現在の幅員、形状は都市計画道路に求められている機能を満たしているので、整備する予定はない。

質問 本町山田線の歩道整備と当該路線の街路事業化の取組みについて。

答弁 社会情勢の変化等考慮し都市計画道路を見直しているが、当該路線は現計画のまま継続することとしている。今後、旧小千谷総合病院跡地整備と連携した周辺整備の観点から歩道の確保は必要であるので、県に対し歩道整備の要望をするとともに、事業推進には県と協力して進める。

質問 今冬の異常降雪における本町2丁目交差点の除雪状況など、児童生徒の安全確保の面からも通学路安全推進会議で議論等がなされているのか。



教育長答弁 各学校では、児童の安全確保のため通学路の安全点検等を行い、報告をいただいている。中学校では通学路を特に定めていないが、危険箇所については、リストアップして通学路安全推進会議で情報共有や対策等の検討を行っている。

内山 博志 議員



雪、新型コロナ、国保、原発再稼働問題

質問 豪雪による災害救助法等の適用基準の見直しを求めていくべきでは。屋根の命綱アンカー設置の支援は経済的に大変な世帯の対策が必要ではないか。

答弁 財政支援など要望している。制度設計を要支援世帯の負担軽減も含め、検討し普及につながるようになりたい。

質問 クラスタ感染、医療の逼迫防止のため福祉、医療施設、保育所、学校など積極的にPCR検査を行うべきではないか。飲食業、サービス業の多くは、コロナ禍で深刻な状態だ。国、県に上乗せし、希望が持てる直接支援が重要だ。市長のお考えを伺う。

答弁 職員を対象にしたPCR検査は考えていない。国、県ともに意欲ある事業者への支援を準備している。県等の動きを注視し、市

として各種支援策を検討したい。**質問** 国保は無収入でも均等割負担がある。一人年4万5千円だ。子どもが多いほど大きな負担になる。市は子育ての負担軽減の観点から就学児の均等割の見直しをすべきでは。コロナ禍で傷病手当金が創設されるが個人事業主も含めるべきではないか。

答弁 全国市長会等で対象拡大を引き続き求めている。市単独での対応はしない。国の財政支援を超える傷病手当金支給の考えはない。

質問 東電のIDカードの不正使用、工事未了問題、次々と不祥事が発覚。信頼は大きく揺らいでいる。原発コストは再生可能エネルギーより高いは世界の常識だ。今回の不祥事の認識は。避難計画がない中で再稼働は認められないと思うが市長の考えは。

答弁 極めて遺憾、速やかな原因究明と再発防止を求める。信頼失墜の行為は容認できない。

県の計画に合わせて計画の塾度を高める。再稼働については、知事のすすめ方を尊重する。

市政の内容を聞く

一般

質問

阿部 守男 議員



コンパクトシティと旧小千谷総合病院跡地利用について

質問 コンパクトシティを目指す

当市に図書館は核として重要と捉えますが高齢者、中高生の利用増になるでしょうか。冬期間、自家用車、バスで来るでしょうか。

コンパクトシティの最大の弱点は雪だと思いがいかでしょうか。中心市街地への人口誘導は中山間地の過疎化、地域特有の文化の衰退にならないでしょうか。

答弁 旧小千谷総合病院跡地整備

事業については、西小千谷地区市街地まちづくり基本計画、旧小千谷総合病院跡地整備計画、旧小千谷総合病院跡地整備事業基本計画及び民間活力導入可能性調査業務報告、小千谷市図書館及び（仮称）小千谷市立郷土資料館基本計画、小千谷市立地適正化計画などの策定過程で市民参加のワークショップや意向調査を行い、意見を聞いた。

てきた。周辺に立地する錦鯉の里、サンプラザ、西脇邸、東忠及び慈眼寺などの施設への回遊性を高め

国内外からの誘客を期待。高齢者や中高生などが訪れたいくなる居心地の良い拠点施設とするために、

仮称小千谷リビング・ラボを中心として、アドバイザーや今後決定

する設計業者と考え実践する。小

千谷市立地適正化計画の都市づくりの理念において、「市街地では都市計画区域を拠点としたコンパクトな都市構想を維持するとともに郊外部においては、豊かな自然環境やそれらによって培われた文化や産業を守り、育てることによつて、地域の存続、振興を図ります。」

また、「市街地と郊外部を既存の公共交通や次世代の交通システムなど、公共性のある交通手段で連絡し、人、モノ、情報等の行き来を円滑にすることによって、小千谷

市全体の持続的かつ均衡ある発展を目指します。」と定めている。

施設整備を単なる箱物建設と捉えることなく、まちづくりの拠点としてどう活用していくべきかを多くの方々ともに考え、作っていき

佐藤 隆一 議員



エネルギー政策に果たす自治体の役割

質問 小千谷市は、原発について

は国策だからとの理由で、これまでもノーコメントでした。柏崎刈羽原子力発電所の再稼働問題について、科学的観点から事前了解権を含む新安全協定を策定する目的で超党派の議員研究会を立ち上げました。どう評価しますか。

答弁 研究会は結論ありきではない

ときいています。新潟県も3つの検証委員会で審査しています。議員の活動については、コメントする立場にありません。

質問 市長は新潟県知事の判断を

尊重するとしています。また、信を問う方法については、どのように考えますか。

答弁 3つの委員会で検証が進め

られており、その結果を踏まえて判断が示されるので、その進め方

については尊重します。
質問 避難計画はどこまで調整が進んでいますか。

答弁 現在、新潟県においてマニュアル作りが進んでおり、これにもとづいて避難先や県との調整が必要。また、防災訓練で出された課題などを反映させて、実効性を高めることが求められています。

質問 30キロ圏内の自治体は、東京電力との間で、事前了解権を含めた新たな協定を締結し、市民の意向を再稼働問題に反映させることが必要ではないでしょうか。

答弁 現在の協定は紳士協定であり、「市町村による原子力安全対策に関する研究会」での研究テーマとなりうるのではないかと考えています。

質問 福島事故の反省を踏まえて、新潟県の判断に市民の意向を伝えることが必要です。市民の意向を取り纏め、県に伝えることができるのは自治体にしかできない仕事だと思いませんか。

答弁 自治体だけでなく議会や議員、それぞれが意見を述べたり要望することが大切と考えます。

長谷川 有理 議員



福島原発事故避難者の方への当市の対応について

質問 避難者名簿登録解除を希望したと担当課がいう当市の福島原発避難の方、16名中7名が再登録を希望された。本人の意向を無視して解除を進めたのではないか。

答弁 寄り添い方を今後より注意深く進めるよう担当課に徹底した。

除雪体制の更新・向上を

質問 妙高市・十日町市・長岡市・上越市・新発田市等で導入済みの除雪車の運行管理システム等で除雪の見える化を図るべき。

答弁 電話やメールで十分対応。運行管理システムはロータリー除雪車3台で現在、実証を検証中。

豪雪地おぢやでの原発事故と豪雪の複合災害時リスクについて

質問 医療・社会福祉施設の原発事故時避難計画の策定状況は。

答弁 医療機関2施設中1施設、福祉施設42施設中34施設策定済み。

質問 県が各施設避難計画を把握しているが、市は把握していないのか。

答弁 県に報告するもの、市に報告するもの合わせて担当課で把握している。

質問 原発事故時の避難計画が豪雪対応を検証中では実効性のある避難計画と言えないのではないか。

答弁 どうやって高めていくかという作業を今後、行っていく。

男女共同参画と人材育成の推進

質問 森元会長発言をどう考察。

答弁 世界から日本のジェンダー平等をもっと推進するように求められたものと考ええる。

質問 当市の男女共同参画プラン改定時期を迎え到達度や課題は。

答弁 審議会等委員に占める割合は目標値35%に24・2%と未達成。現状分析し課題を洗い出していく。

質問 東京小千谷学生寮の女子入寮が長らく実現出来なかったのは森元会長発言と同根の問題ではないか。新型コロナウイルス禍の地元志向もあり新年度入寮希望が少ないと伺っているが対策強化を。

教育長答弁 同じとは考えていない。女子が学生寮に入っていただけるように周知等最善を尽くす。

本会議をインターネット中継しています

市議会ホームページからインターネットライブ中継でご覧いただけます。本会議当日のライブ中継のほか、本会議終了後概ね1週間後には、録画映像も配信しています。市政への一般質問で各議員の顔写真の下に二次元コードを掲載しています。スマートフォンやタブレット端末で読み取ると、各議員の一般質問の録画中継をご覧いただけます。また、会議録も市議会ホームページで閲覧できます。(令和3年第1回定例会の会議録掲載は、5月末頃となります。)

URL <https://www.city.ojiya.niigata.jp/site/gikai/>

小千谷市議会

検索

市議会を傍聴してみませんか

第1回臨時会開催予定

5月12日(水)

第2回定例会開催予定

6月7日(月) 第1日

6月8日(火)~10日(木)

6月22日(火) 第2日

6月23日(水) 予備日

6月25日(金) 最終日

議案上程説明

各常任委員会で審査

一般質問

一般質問(質問者が多い場合に開催)

委員長報告、採決

※日程は変更される場合があります。各委員会の日程、団体での議会傍聴については議会事務局(Tel83-3505)へお問い合わせください。委員会の傍聴については、あらかじめ議会事務局へお申し出ください。

〈1月〉

- 6日 広聴広報委員会
- 13日 広聴広報委員会
- 14日 総務文教委員協議会
- 27日 総務文教委員と教育委員との意見交換会

〈2月〉

- 4日 議員協議会
- 5日 総務文教委員上越教育大学附属中学校視察
- 17日 議員協議会
- 22日 議会運営委員会

〈3月〉

- 1日 第1回定例会（本会議）
- 〃 広聴広報委員会
- 4日 常任委員会連合審査会
- 5日 常任委員会連合審査会
- 8日 常任委員会連合審査会
- 9日 総務文教委員会
- 〃 総務文教委員協議会
- 11日 民生産業委員会
- 16日 議会運営委員会
- 〃 本会議（第2日）
- 17日 本会議（第3日）
- 19日 議会運営委員会
- 〃 本会議（第4日）
- 〃 議員協議会



中野 七郎 (山谷)

精密機械加工の仕事から解放されて、これがチャンスと山野草の生産販売を生業とする。特に雪割草の交配と育種を中心に進めてきましたが、自分の思うようには物事が進まない事に、頭を抱えこむ時もあります。

特に、雪割草は交配して種を蒔いてから、うまく育って三年目でやっと初めて花が咲くという、気の長い植物で花を見ないうちは処分出来ないという代物

です。

そんな仕事をやっている中で、沢山の人の出会いがありました、特に、小千谷出身の雪割草では世界的に有名な岩渕さんとの出会いが私を大きく変えたと思っています。何の知識もない私に育種の事を教えてくれました。花の色・形が千差万別の雪割草は、この世界に私を引きずり込み、大きく人生を変えたと言っても過言ではないようです。年も取り、最近では交配もあまりしなくなりましたが、それでもオリジナルの花が作りたくて、親木を探して晴れた日はハウスの中をうろついています。

今年もいろいろな花が咲きました。それでもまだこんな花を作りたいと欲をかいている毎日です。

これは、人生の終わりまで続く事だと思えます。



編集後記

議員となつて2年が経過し、広聴広報委員会での市議会だより編集も今回8回目となりました。

どうしたら市民の方々から親しみを持って読んでもらえるようにするか、どうやったら読みやすい紙面になるか勉強させてもらい、意見を交わしてきました。

もつともつと身近な市議会を目指し市議会だよりの発行だけでなくいろんな企画をし、実践してゆくのが広聴広報委員会の活動であります。

いまだコロナ禍という状況の中、制限や自粛が続いておりますが、紙面を通じて市議会だよりが情報発信のツールとして少しでも貢献出来たとすればとても嬉しく思いますがいかがでしたでしょうか。

今後もつともつと市民の方々から身近な存在になれるよう皆様と同じ視線・視点で小千谷市の事を考えて発行してゆきたいと思えます。これからも宜しくお願い申し上げます。

編集副委員長 平澤 智